

丸井織物、15～20年の中期ビジョン策定

業態、製品、技術の革新

IT融合で新規事業も

合織長織維織物製造で織布最大手の丸井織物（石川、宮本徹社長）は、中期ビジョン「革新200」を今期（15年12月期）スタートした。「業態」「製品」「技術」の三つの面で革新を図り、ビジネスモデルを高度化する。特にIT（情報技術）との融合を重視し、生産革新や新規事業立ち上げを目指す。

中期ビジョンは15～20年度の6カ年の方針として策定した。

ヨンに移行した。

前回ビジョン「変革100」で
売り上げ計画は20年度に連結
200億円だが、「数字はあく
までも目安。重要なのは体質、
事業構造といった中身」（宮本

社長）とし、「モノづくりとIT
を融合させ三つの“カクシ
ン”で、イノベーティブテキス
タイルカンパニーとなる」を掲
げる。

具体的には、ITと融合した

一方で特徴ある素材をブランド化し、テキスタイル自販も強められる。これまで「マリテックス」の全社ブランドの下、多重織りでダブルフェイスを表現する「カラカンビオ」、天然繊維

「アートリティモ」、ナイ

ロン100%の形状記憶素材「ミフルマ」を立ち上げている。今後も拡販、拡充させる。IT事業は、ネット販売など新規事業を立ち上げる。今春に開発・生産など「5～6年で一気に生産現場を変えていきたい」（宮本社長）という。

丸井織物は、①自販②提案委託③海外④IT一一の分野別に事業方針は、①自販②提案委託③海外④IT一一の分野別に立てる。合織メーカーや商社からの委託事業は今後も柱に位置付けており、これまで進めてきた、受け身ではなく自ら提案していく「自律型」の委託ビジネスをさらに進化させる。

一方で特徴ある素材をブランド化し、テキスタイル自販も強める。これまで「マリテックス」の全社ブランドの下、多重織りでダブルフェイスを表現する「カラカンビオ」、天然繊維「アートリティモ」、ナイ

ロン100%の形状記憶素材「ミフルマ」を立ち上げていける。今後も拡販、拡充させる。IT事業は、ネット販売など新規事業を立ち上げる。今春に開発・生産など「5～6年で一気に生産現場を変えていきたい」（宮本社長）という。

丸井織物は、①自販②提案委託③海外④IT一一の分野別に立てる。合織メーカーや商社からの委託事業は今後も柱に位置付けており、これまで進めてきた、受け身ではなく自ら提案していく「自律型」の委託ビジネスをさらに進化させる。

一方で特徴ある素材をブランド化し、テキスタイル自販も強める。これまで「マリテックス」の全社ブランドの下、多重織りでダブルフェイスを表現する「カラカンビオ」、天然繊維「アートリティモ」、ナイ